

日本数学会教育委員会からの報告

【教育委員会】

日時：2025年9月16日 11:00～12:30

場所：名古屋大学 全学教育棟（中央棟）3階 C32

出席：11名

議事の概要は以下のとおりである。

1. 教育シンポジウムの打ち合わせ

委員会後の午後2時15分から行われる教育シンポジウムの運営に関する打ち合わせを行った。会場での担当係の割り振りを決めるとともに、参加者へのアンケートの内容を確定した。

2. 次回教育シンポジウムについて

次回の教育シンポジウムは、学習指導要領改訂をテーマとすることになった。具体的な内容や講師については、進行中の中央教育審議会における議論の進捗を踏まえ、委員長・副委員長で検討することとした。（後日検討の結果、中央教育審議会の算数・数学ワーキンググループ委員である中島啓氏、ならびに日本学術会議数理解科学委員会数学教育分科会委員長である伊藤由佳理氏に講師を依頼することになり、両氏にお引き受けいただいた。開催は学会3日目とした。）

3. その他

2026年3月3～6日に京都大学数理解析研究所で開催予定の大学数学教育の研究集会の案内があった。また、2025年7月にソウルで開催された東アジア地域数学教育会議（EARCOME 9）の参加報告がなされた。また、教員養成の課題についての情報交換も行われた。

【教育委員会主催教育シンポジウム】

日時：2025年9月16日 14:15～16:45

場所：名古屋大学 全学教育棟（南棟）1階 S1X

今回の教育シンポジウムは、「変わりゆく数学教育—学習指導要領の改訂と大学数学教育のゆくえ—」というタイトルで行われた。司会は、安野史子 教育委員会副委員長が務めた。シンポジウム開会に際し、石毛和弘 日本数学会理事長による挨拶があり、続いて川添充 教育委員会委員長がシンポジウムの趣旨説明を行った。

最初の講演は、宇野勝博氏（京都産業大学）による「現行学習指導要領の狙い」であった。現行の学習指導要領の改訂時に中央教育審議会の算数・数学ワーキンググループ委員を務められた経験をもとに、当時の学習指導要領改訂がどのようなねらいで進められたのか、またワーキンググループにおいてどのような議論が行われたのかについて、詳しい紹介がなされた。

次の講演は、藤井良宜氏（宮崎大学）による「高等学校数学科における統計教育への期待」であった。統計教育を取り巻く状況について、学習指導要領での取り扱いの変遷やデータサイエンス教育関連に関する動向とともに紹介がなされ、さらに交絡因子やバイアスといった概念について具体例を用いた紹介が行われるなど、統計教育において重視すべき点が示された。

最後の講演は、高橋哲也氏（大阪公立大学）による「大学数学教育の課題」であった。高等学校段階の数学教育や大学入試に関する課題の指摘から始まり、大学における課題として、数理・データサイエンス・AI教育の基礎としての数学教育が十分に行われていない点、特に文系学生向けに数学的リテラシーを涵養する教育が不十分である点などが指摘された。また、生成AIの影響についても言及がなされた。

今回も各講演後に質疑応答の時間を設け、さらに別途ディスカッションの時間も設定した。ディスカッションでは、様々な観点から質問が出され、活発な議論が行われた。参加者は62名であった。

文責 教育委員会委員長 川添 充